

～デング熱患者の発生について～

- 県内で今年初めてのデング熱の患者が確認されました。全国では16件（2月4日現在）が報告されています。
- デング熱は、蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによっておこる感染症です。熱帯や亜熱帯の全域で流行していますので、渡航する場合は、長袖・長ズボンの着用に留意し、忌避剤を使用するなど蚊に刺されないように注意しましょう。
- 媒介するヒトスジシマカは日本でも広く分布していますので、帰国後も蚊に刺されないことが大切です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。

1 患者の概要

- (1) 患者：男性（48歳）、上益城郡在住
- (2) 職業：会社員
- (3) 症状：発熱、頭痛、悪寒、血小板・白血球減少
- (4) 経過：

1月26日～2月1日

:仕事のためインドネシアに渡航。インドネシア滞在中、蚊に刺された。

2月2日：悪寒の症状が出現。

2月3日：39.5℃の発熱があり、近くの医療機関を受診。解熱剤及び抗生剤を処方される。

2月9日：症状が続くため、熊本市内の医療機関を受診し、経過観察のため入院となる。同日、熊本市環境総合センターに検体（血液・尿）を搬送。

2月13日：デング熱陽性のため、同医療機関から熊本市保健所に発生届あり。

現在：退院し、回復傾向

（裏面あり）

参考

■ デング熱について

蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによっておこる急性の熱性感染症で、東南アジア、南アジア、中南米など熱帯や亜熱帯の全域で流行しています。国内では、平成26年8月以降、東京都立代々木公園に関連する患者の発生が報告されました。

感染経路：ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します（蚊媒介性）。ヒト-蚊-ヒトの経路で感染が伝播し、ヒトからヒトへの感染はありません。

潜伏期：2～14日（多くは3～7日）

症状：突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹などの症状がみられる。通常は、1週間程度で回復するが、ごく一部の患者は重症化してショック症状や出血傾向を呈することがある。

治療：特異的な治療法はなく、対症療法となります。

■ 感染を防ぐためには

○蚊に刺されないように心がけること。

- ・蚊の多い場所においては、長袖、長ズボンを着用し虫除け剤を使用して下さい。
- ・家庭周りの小さな水たまり（植木鉢の皿、古タイヤ、竹の切り株など）をなくし、蚊の発生源を減らすようにして下さい。

○休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努めること。

○国内で利用可能なワクチンはありません。

■ 県及び全国の発生状況

R6.2.14 現在

年	H18～H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
熊本県	9	2	1	3	1	2	3	2	0	0	0	1
全国	1,163	341	293	342	245	201	461	45	8	98	175	17

※県内の死亡例について、把握している事例はない。

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策第二班

担当 大和、槐島

電話 096-333-2240（直通）（内線 33154）